



第466号 平成29年5月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

$$2.2\% \times \boxed{1} \times \boxed{2} = 0.11\%$$

会 長 林 鐘 声

文部科学省は全国の教育委員会を介して学校毎に運動器検診のアンケートを行い、その結果を公表しました。対象児童生徒数は約1,300万人、学校医から専門医受診を指示されたのは2.2%、学業を行うのに支障のある疾病、異常と判断を受けたのは0.11% (14,096人) でした。京都市は2.5%、0.44%であったことから、0.11%と0.44%の4倍の差はとて気になることでした。

実際に専門医を受診した率 =  $\boxed{1}$  と、専門医受診して疾病・異常が診断された率 =  $\boxed{2}$  のどちらかを調査していると4倍の差の理由が明らかとなるのですが、文部科学省は調査していません。

そこで推定してみることにしました。京都市では検診後専門医受診した564人の約70%に疾病・異常があったことから、 $\boxed{2}$  に0.7を代入すると  $\boxed{1} = 1/14$  となります。日本臨床整形外科学会の調査

では、検診後受診者10,256人のうち、約60%に疾病・異常が診断されていました。そこで  $\boxed{2}$  に0.6を代入すると  $\boxed{1} = 1/12$  となります。疾病・異常の診断率として70%も60%もいずれも根拠のある数字ですので、受診を指示された児童生徒のうち、14人から12人に1人しか受診していないことが推定されました。京都市の4人に1人でも低いと考えますが、全国では更に低く、検診を行った学校医にとっては「あな、甲斐のなの業や」ということです。

文部科学省は運動器検診後の専門医受診率が極めて低いことを予測していたことから、白日のもとに出さないように敢えて手抜かりのあるアンケート調査を行ったのではないのでしょうか。ともあれ、運動器検診は文部科学省が出した省令によって始まったことを私達は忘れてはいけません。今後、文部科学省はどう対応していくのでしょうか。

## 平成28年度学校保健講習会

会 長 林 鐘 声

3月19日(日)、日本医師会館で行なわれました。シンポジウムの1つは奥村 正治先生にお願いして、残りを私から報告します。

「最近の学校保健行政について」の講演では平成28年12月にガン対策基本法を一部改正した法律が成立したことから、学校におけるガン教育推進が新たな課題となることが報告されました。

特別講演は日本産婦人科医会理事による「性犯罪の現状と課題」でした。平成27年度でみると、強姦、強制わいせつの被害は約8,000件、その半数は19歳以下、12歳以下でも1,000件近く認知されています。勿論、これは氷山の一角に過ぎず、加害者は身近な

人が多いことにも注意を払うべきです。性犯罪被害者支援では産婦人科受診による検査・治療、婦人科以外の身体的被害への治療、心のケアに伴う精神的支援、また、警察への犯罪通報、刑事手続への支援など多岐に亘ります。また、その都度、問診が繰り返されることも被害者にとって大きな負担となります。可能な限り1カ所で総合的支援を行うため、平成32年までに各都道府県に最低1カ所のワンストップ支援センター設置が決っていて、京都府では平成27年8月に既に開設しています。被害に会い、犯罪として訴えることに躊躇いがあり、どこに相談してよいか判らない時の相談窓口となる施設です。

「運動器検診の円滑な実施を目指して」のシンポジウムは、日本医師会、文部科学省、日本臨床整形外科学会の3つの団体が各々実施したアンケートの結果報告会にとどまるものでした。

その上に、「背中が曲っているの項目にチェックがなければ脊柱検査を行わなくともよいですね。」の質問に対して、質問する方もする方ですが、即座

にそれは間違いであると指摘できないような学校医の実務に疎い講師が学校医や行政を代表してのアンケート分析でしたから、私達学校医の機微に触れるところがないものでした。整形外科からの報告は当事者意識のある分析、提言となっていただけに、当事者意識の落差は明らかで、「円滑な実施」は自分達で工夫しなさいということのようです。

## 日本医師会主催 平成28年度学校保健講習会 シンポジウム②：「学校管理下における事故とその予防」

福西小学校医 奥村正治

今年度より変更になった法律で学校保健が始まり、日医の講習会にも安全の項目の話題が入り、最速シンポジウム②に事故の課題が入って来ました。

### ・学校管理下における事故

日本スポーツ振興センター学校安全部  
安全支援課長の米山尚子氏

### ・死亡事故（突然死その他）と予防

若年者心疾患・生活習慣病対策協議会副会長  
愛知県済生会リハビリテーション病院院長の  
長嶋正實氏

### ・眼科領域における事故と予防

日本眼科医会理事の宮浦徹氏

### ・歯科領域における事故と予防

日本学校歯科医会会長の丸山進一郎氏

### ・整形外科領域における事故と予防

北里大学医学部整形外科学助教の東山礼治氏

### ・特別発言

文科省初等中等教育局健康教育・食育課  
学校安全教育調査官の吉門直子氏

の6人のシンポジストの方々でした。

6題目、特別発言は特別発言で、文科省の安全教育と安全管理の取組みや歴史でしたので、ほとんど参考にはなりませんでした。

1題目では、災害共済給付の加入は全国の学校、幼保育園等の95.7%でほぼ園児・児童・生徒の大半は加入していると言える。又、学校管理下における事故の様子は「個人情報ですので・・・。」と言う事で、学校医会等へは情報が入って来ないのが現状です。現在の状況では、日本スポーツ振興センターの情報が唯一の情報元と言っても過言ではない。しかるに [学校安全Web](#) → [検索](#) でデータをひ

らうしかないのです。色々判明する事もある様ですので・・・。と言う話でした。

2題目では、学校管理下の心臓性突然死の頻度は年々低下している。心臓検診で早期発見し、適切な管理の普及（ガイドラインの作成）、治療の進歩、適切な救急処置（AED等の普及）等により低下していると話された。京都市の学校心電図検査も本年より誘導数が増えより適切な診断につながると考えられます。

3題目は、重度の眼外傷は、小学校ではスポーツ以外（遊び・ふざけ・アクシデント等）で多く起きている事を忘れてはならない。中・高生では、スポーツが断トツで多いです。又、保護眼鏡も開発されている話も出ました。スポーツ以外でも眼外傷は発生し、学校の清掃時間にほうきの先についたゴミを振り落とそうとして左右に振った為、となりの生徒にほうきの端あたり眼外傷が発生した話題もありました。

4題目では、歯牙の脱臼、破折、顎骨の骨折等がある事は皆様でも予測は出来ると思いますが、口腔周辺の打撲により、歯の埋入も時としてある様ですので、お忘れなく。これは、小学生の京都の陸上競技会で、実際ありましたが、走行時にころんで、下唇と上歯との圧迫で下唇内が切傷し、下顎骨が内眼的に見えるという事故がありました。同じ様な話もあり、何年か前に同じ経験をした事を思い出しました。

5題目は、整形外科領域ですので、骨折や捻挫、靭帯損傷等の話題が中心ですが、特に小学生では骨端線損傷には特に気をつける様に！！

又、運動会等で行なわれる組み体操での事故件数

が大幅に減少した。と。この理由の中に、単に組み体操を止めた為ではなく、学校が従来より安全面に積極的に配慮したからと話された。それにはより詳しい情報共有があれば、より安全な組み体操が可能になるとも話された。

シンポジウム②からは、「安全の学習は、事故か

ら学ぶ」が鉄則だろう。そうなのに「個人情報の関係で」と言われ、(教育界では情報の共有はなされているだろうと思いたい)我々の学校医の耳に入って来ない情報が多々ある。より良い安全教育、安全管理を作り上げていくには、情報の共有が必須である事を教育界は知ってほしい。

## 平成28年度京都市立学校定期結核健康診断の結果報告と 結核対策委員会での協議内容について

第三錦林小学校・結核対策委員 大久保 秀 夫

平成28年度京都市立学校定期結核健康診断の結果と結核対策委員会での協議内容について報告いたします。

平成28年度結核健康診断の間診票提出者数は小学校62,020名(在籍者62,133名)、中学校29,148名(在籍者29,193名)、総合支援学校417名(在籍者417名)の合計91,585名であった。このうち156名(0.17%)が、家族・本人の患・予防内服歴、高まん延国からの帰国、自覚症状有り等の理由で要検討となった(表1)。

表1 間診結果

校 種	在籍数	間診票提出者数	要検討者数	要検討者内訳		
				家族り患、 本人り患、 予防内服歴	高まん延国 からの 帰国者	自覚症状
小学校	62,133	62,020	126	27	92	7
中学校	29,193	29,148	30	6	21	3
総合支援学校	417	417	0	0	0	0
合計	91,743	91,585	156	33	113	10

表2 ツベルクリン反応検査

校 種	対象者	受検者	有意陽性者	(未受検者)
小学校	92	83	6	(9)
中学校	21	19	0	(2)
総合支援学校	0	0	0	(0)
合 計	113	102	6	(11)

有意陽性者：BCG未接種あるいは接種歴不明でツ反陽性、  
BCG接種済で強陽性もしくは発赤30mm以上

表3 胸部X線直接撮影

校 種	対象者	受検者	有所見者	(未受検者)
小学校	15	8	0	(7)
中学校	2	0	0	(2)
総合支援学校	0	0	0	(0)
合 計	17	8	0	(9)

要検討理由が「家族あるいは本人が罹患したか感染を受けて予防内服歴がある」による者は小学校、中学校、総合支援学校合わせて33名であったが、全員が保健センターでの管理を受けているか管理を終了していることが確認された。問診時自覚症状有りとした者10名は、再調査において症状が消失していたか医療機関を受診し、結核の疑いはないことが判明していた。その結果、ツベルクリン反応検査(ツ反)の対象となったのは113名で全例高まん延国からの帰国者であった。113名中102名がツ反を受検し、BCG未接種(接種歴不明を含む)でツ反陽性者は3名、BCG接種済でツ反強陽性もしくは発赤30mm以上であった者は3名でいずれも小学生であった(表2)。この6名と高まん延国からの帰国者でツ反を受けていなかった者11名が胸部X線直接撮影の対象となった。17名の対象者のうち胸部X線を実施したのは8名で全員異常を認めなかった。ただし小学生7名と中学生2名は、高まん延国からの帰国により要検討に挙げられたが保護者の同意が得られずツ反も胸部X線撮影も実施できなかった(表3)。最終結果として平成28年度定期結核診断において結核患児は発見されなかった。

次に平成28年度結核対策委員会での協議内容について報告いたします。

### 1) 高校1年生の胸部X線撮影

京都市においても、学校保健安全法施行規則に基づき、従来一次検査を間接撮影で実施し、要精密検査対象者の二次検査を直接撮影にて実施していた。しかし、間接撮影車の製造中止等により一次検査自体が直接撮影車で実施されるようになったため、続いて行う二次検査も同じく直接撮影で行うことの意義に疑問が呈せられた。このことについて検討の結

果、要精密検査者の検査内容は「胸部エックス線直接撮影及び喀痰検査を原則とするが、対象者の状況に応じて、胸部CT撮影等、必要な検査を行うものとする。」に改めた。

## 2) 問診票の文言の修正

定期結核検診問診票の質問1、「このお子さまが、いままでに結核性の病気（例. 肺浸潤、胸膜炎、ろくまく炎、頸部リンパ腺結核）にかかったことがありますか？」では、病名の中途半端な例示はかえって混乱のもとになるため、括弧内の例示を削除し「このお子さまが、いままでに結核性の病気にかかったことがありますか？」に改めた。

また、問診票の質問4、「このお子さまは昨年度中に、通算6ヵ月以上居住していた外国から帰国されましたか？（※小学校1年生のみ「このお子さまが、過去3年間に通算して半年以上、外国に住んでいたことがありますか？」）」では、居住期間を誤って解釈し、通算6ヵ月以上外国で居住していても前

年度内の居住期間が6ヵ月に満たない場合「いいえ」と回答する例が散見された。このような誤りを排除する目的で、設問を「このお子さまが、通算6ヵ月以上居住していた外国から、昨年度中に帰国されましたか？（※小学校1年生のみ「このお子さまが、過去3年間に通算6ヵ月以上、外国に住んでいたことがありますか？」）」に改め、併せて補問においてその国名とともに居住期間を記入できるようにした。

3) 高蔓延国からの年度途中転入者への対応について  
現在の仕組みでは、6月30日までに実施することとされている健康診断の終了後に、高まん延国からの転入等、新たに結核検診の対象とすべき児童・生徒がでた場合にも翌年度まで検診の機会が設定されていないため、発見までに大きなタイムラグが発生する可能性がある。この問題については、秋ごろに追加でツ反検査等必要な検査を実施するなどの改善策につき、今後教育委員会・学校医会等で検討・調整していくこととなった。

---

---

## 第1回 常任理事会

---

---

平成29年5月6日  
於：事務局

出席者 林会長、井本副会長、東道・大久保・山内・安野・川勝・中嶋各常任理事、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村副議長、長村監事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 色覚相談 4/4 2名, 4/11 1名,  
4/18 2名
2. 全理事会 4/6 14:00～ 於：こどもみらい館
3. 京都市学校薬剤師会懇親会 4/8  
於：京都タワーホテル
4. 精神衛生研究会 4/13
5. 平成29年度 京都市学校医会総会 4/15
6. 京都市中学校春季体育大会 柔道種目  
5/3 奥村正治先生, 5/4  
於：京都市立桂中学校
7. その他

### <協議事項>

1. 平成29年度 各懇談会協議事項について
2. 平成29年度 三師会について 6/17
3. 平成30年度 京都市学校医会総会日程について  
4/28
4. 全国学校保健・学校医大会 出席者について  
11/18 於：津市
5. ツベルクリン反応 6/28, 6/30  
於：こどもみらい館
6. その他

### <関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 5/9, 5/16, 5/23, 5/30
2. 精神衛生研究会 5/11
3. 京都市学校保健会 第1回常務委員会 5/16  
於：京都市総合教育センター
4. 京都市中学校春季総合体育大会  
ラグビーフットボール種目 5/20  
於：京都市宝ヶ池球技場 竹中健先生
5. 第68回指定都市学校保健協議会学校医研修会  
5/20 於：ホテル・アゴラリージェンシー堺
6. 第68回指定都市学校保健協議会 5/21  
於：ホテル・アゴラリージェンシー堺
7. 第2回常任理事会 6/3 14:00～
8. その他